

第2回 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会
ワーキング全体会 会議録【概要】

1. 開催日時

令和7年9月26日（金）18:00～20:00

2. 開催場所

八尾市役所本館6階 大会議室

3. 出席者

※ 委員18名中16名が出席。本審議会の規則第6条第2項の規定に照らし、有効に会議が成立。

(委員) 水島会長、池田副会長、浅井委員、石田委員、泉谷委員、高瀬委員、伊藤委員、植村委員、小川委員、笠原委員、梶山委員、金委員、草積委員、徐委員、高木委員、松田委員

(傍聴者) 1人

(事務局) 人権ふれあい部次長 兼 人権政策課長 寺島
人権ふれあい部人権政策課課長補佐 阪田
人権ふれあい部人権政策課係長 池田
人権ふれあい部人権政策課係長 富田
人権ふれあい部人権政策課副主査 山崎

株式会社HRCコンサルティング 東野・松村

4. 案件

(1) ワークショップ

1. 自己紹介と役割分担
2. 第1回ワーキング（全体会）の振り返り・共有
3. 八尾市における各分野の実践報告
4. グループワーク『学校・職場・地域でめざしたい人権教育・啓発の目標（姿）』

(2) その他

5. 会議資料

- ・ パワーポイント資料
- ・ 第2回ワーキング（全体会）の進め方
- ・ 第1回ワーキング（全体会） グループワークのまとめ
- ・ 第2回ワーキング（全体会） 実践事例の紹介

6. 議事内容

【部会 A.こども・学校 1班】

<グループ発表>

「笑顔」が大事。一緒に笑えたり、思ったことを言える、それを聞いてくれるというのが大事だと感じました。そのためにやはり大事なこととして、相談できる場所がいっぱいある。安心な放課後、男女仲良く、友達とかかわる、話したいことがあるとか、一人ひとりが大切にされるということが必要なと思います。そのための場所や仲間、……という話も出ました。

学校外の居場所として、多様性であったり共生であったり、認めることが必要だという話も出ました。

先生の働き方についてですが、子どもと一番よく関わる大人が先生なので、先生が楽しくなければ子どもも楽しくないですね。そのためには先生のいろいろな仕事を変えていかなければならない。

先生だけではなく、やはり保護者であったり、地域や学校以外で教育虐待などもあるので、しっかり理解していく必要があるかな。それは学校だけでなく、周りの環境もしっかり勉強する必要があるのかな。やはりこどもの権利もしっかり学んでいく必要があるし。

自由と責任について。なんでも自由であればいいわけではなく、やはり責任というものをセットで考えていくことも必要。達成感をどう味わっていくのか。そこからいろんな人が学校に関わり持つことが大切だという話をしました。

【部会 A.こども・学校 2班】

<グループ発表>

学校でめざしたい人権教育・啓発として

- ① 子どもにつけたい力
- ② 環境のこと
- ③ そこに関わる大人のこと
- ④ 誰もが安心して子どもたちが楽しく学校に行ける(これが一番大事)

と、4つの話ができました。

何でも言えるような集団であったり、自分の意見が言えるとか、楽しくしたり、学べるとか。勉強は難しいけども、何かやってみようとか、話を聞いてもらえるとか、そんな関係を作ることが大事なんじゃないかなって、思います。

それは結局、続けていきたい学校、楽しく思えるとか、みんな元気とか、笑顔になったり、もちろん、そうなるためにはお互いの違いを認め合うことも大事。

子どもは権利の主体者ですが、自分の権利を知らない子どもはまだまだいっぱいいる。子どもたちに権利のことを知っておいてもらう。自分でおかしいことはおかしいと思う、自分の権利が保障されていないと、つながるのではないかな、っていう話になりました。

環境のことですが、ずっと話題になっている「ネット」のこととか、子どもが自由に「タブレット」を使ってできる環境に、大人はついていけない状況です。そんなところは少し学校を目指したい人権教育とは違うかもしれませんが、何か少し強制的な規制が必要なのではないかなと思います。

あとは過度な競争にならないように。競争することも大事だが、そこに過度な競争になってくると、やはり違いを豊かさに捉えられないような体制や序列に繋がってくるのではないかなと思います。

適切な競争であれば、集団として認め合ったり、仲間としての意識が芽生えることもあるので、そのへんは人権教育と結びつけると良いのではないかなと思っています。

先生の職場環境を変えること。やはりしんどい先生もいる。それが子どもたちにかえってしまってい

る。先生が楽しいと思えることで、子どもたちも楽しい授業や人権教育ができるのですが、先生がしんどいと思ってしまうと、一番身近な子どもにかえってしまっている。それはよくないという話になりました。

【部会 B.職場】

私は営利を追求する会社の人間であるということ。もう2名の方はNPO法人でその温度差を正直なところを感じたが、よい意味で。少し切磋琢磨しながら発表させていただきます。

まずは、職場の現状についてです。これは、「こんな職場は嫌だ」というパターンをいくつか挙げてみました。

一部の人が勉強しておけばいいのではないかと、俺は関係ないと思っている、〇〇のくせに発表するな、職場の壁を作って自分たちの部署以外には口出しするな、そして、大きな声を出す人がいる、萎縮して黙っておく、というような方々が多いのが現状です。正直に言って、うちの会社にもそのようなところがあります。

「こんな職場は嫌だ」という点をどう改善すべきか、というところで、まず大きな視点で理想的な職場を考えると、「誰もが働きやすい職場」。これは物理的な環境に関することになると思いますが、そのような観点でまとめてみました。バリアフリーで、NO 残業、子どもを連れて来られるような会社、そんな場所ですね。

また、業務時間との兼ね合いもあります、人手不足を解消しよう。疲れを隠さない、家庭に仕事を持ち込まないといったことが、「働きやすさ」につながると思います。これは心の持ちようだと思うのですよね。これは、「こんな職場が理想的になったらいいな」と。

次に、「こんな職場は嫌だ」ということについてですが、では、どうしたら良いのか。

まず何を勉強したら良いのかがわからないのです。先生がほしいのです。何を勉強すれば良いのかということで、勉強するチャレンジできる、資格が取りやすいような機会を与えてくれる。会社トップの理解があることは、非常に大切。あと、会社トップの下にいる管理職への教育も大切です。

また、コミュニケーションが取りやすい上司と部下、横のつながり、斜めのつながりなど。コミュニケーションを取りながら「働きがい」。先ほどの「働きやすい」と「働きがい」の違いはありますが。

私は売上アップについて考えています。金がたくさん入れば、それが働き甲斐につながり、利益として戻ってきますので、給料が高くなる。そして、賃金と結びつくやりがいも大切。ということで、この2つの到達点を見つめて探してみたのですが、まとめる時間が少なかつた。

【部会 B.地域】

私たちのグループでは、地域でめざしたい人権教育・啓発について話し合いました。

最終的にめざすのは太陽マークです。人権を認め合い、笑顔の絶えない地域にしたいと思います。

そのためにはどうすればいいのかということで、環境について考えました。やはり、地域の環境がとても大事だと思います。住み続けたいと思える街、心地よいと感じる地域・街にしていかなければならない。

そのためには、やはりコミュニケーションが必要になってくる。地域の人が意見の食い違いを、みんながお互いを認め合って、何でも話せる、言いたいことが言える。こういうコミュニケーションを大事にする。

そうすると、環境からコミュニケーションがよくなる。そして、これをまとめるのが地域の組織。福祉委員会、自治振興委員会、まちづくり委員会、育成会などいろんなところがある。それがバラバラに動いているのでは、これをまとめられない。

既存の組織が、新しく組織を作るのはしんどいですから、既存の組織を活性化させて、これらを引っ張っていて、笑顔につなげていく。そのためには、地域の離層をなくしていくこと。若い人 高齢者、世代を超えた交流をはかる。それには団体の協力が必要。困ったときのために、団体が助け合って行動し、PTA、育成会が助け合う、福祉委員会と自治振興委員会も助け合っているということで、しっかりした組織を作れば、この辺がくっついてくるのではないかと思います。

ということで、最終的には太陽が明るく輝く、子どもの元気な声がある、安心してらせるというふうを持って行きたいなと思っています。

以 上